

1. 教育の責任

私は、本学地域未来学科子ども養護コースにおいて、専門教育科目の看護に関する科目を担当している。本学の養護コースでは養護教諭二種免許状が取得できるが、看護師の資格を持たない学生であり、入学後に初めて看護というものに触れることになる。そのため、看護を学ぶ必要性および学習内容がどのように養護教諭の職務に関係しているのかを理解したうえで講義に臨んでもらうことを目指している。

1年次で学習する「看護学」では、特に初めて耳にする用語などもあるため、既存の知識や自分の身体と関連させながら看護について理解し、その後の予防教育、健康の保持・増進のための教育活動の実際につなげていくことが必要だと考えている。

2. 教育の実施における理念

本科目は看護の役割・機能を理解し人間の基本的ニード、健康レベル、看護過程の基本について学習する。また、疾患の看護、小児の成長発達、生活習慣を学び子どもたちの健康課題解決への支援や健康の保持・増進の支援を行うための知識・技術を習得する。

3. 教育の方法

多くの学生は「看護」について学ぶことは初めてである。そのため看護に対するイメージの確認、なぜ看護学を学ぶのか必要性の説明をおこなった。授業では事例や課題をもとに自分で調べ、考えた内容をグループで発表し、考えを述べる機会や他の学生の考えなどを聞く機会、クラス全体へプレゼンテーションを行う機会を設けた。また、知識の定着を目

的に、授業の初めの10分間で、前回の講義内容に関するミニテスト及び解説を行った。

4. 教育の成果

本コースの学生は35名で、ほぼ看護を学んだ経験のない学生が多い状態であった。そのため、学習経験のある学生も授業に興味を持てるよう実技の介助やアシスタントとして協力を得ながら、自己の知識の振り返りをおこなえるように配慮した。

学生の授業評価では、到達目標の達成度を63%の学生がとても～まあまあ当てはまると回答していた。しかし、説明や目的の明確さ、興味などではあまり当てはまらないと答えている学生も4%程度みられた。自由記載には、「丁寧な説明で理解できた」「わかりやすかった」との意見がある一方で「専門用語が多すぎる」「難しかった」「なぜこの教科を勉強するのかわからない」などの意見があった。授業目標、科目の関連性の明確化などもっと学生にわかりやすく、理解状況の確認を細かく行いながら進めていくことが必要であり課題となった。

また定期試験において再試験者が13名、37%でありGPAの平均値も1.9点と低かった。授業見学时に専門的な用語が多く、学生が理解できていないのではないかとの意見があった。学生の自由意見にも記載されており今後の改善が必要である。また、成績の平準化として、授業内容の見直し、発問や説明内容の見直しなど今後の課題となった。

5. 目標

- 1) 資料・スライド・説明・発問等の工夫を行い、学生がより理解しやすい授業の工夫を行う
- 2) 学生の興味・関心を高め、自己の保育者・養護教諭像をイメージできるよう支援する